

WUB世界大会

移民の思いを次世代へー12日、那覇市のホテルロイヤルオリオンで開催されたビジネスを軸とした県人の交流ネットワーク、WUBの第15回世界大会は、移民の歴史の再考を求める意見が多く出た。大会のスローガンは「絆 ウチナインチュの力：縄から世界を元気に」。世界17カ国、22支部から150人が会場を訪れた。パネル討論会や元沖縄テレビ放送常務取締役の前原信一氏の講演会が開かれ、沖縄の心を次世代につなげるための課題点として、移民の歴史や移民の思いをしっかりと若い世代に伝える必要性が強調されたほか、ビジネスネットワークというWUB本来の目的の強化、充実に訴える声があった。



第15回 世界のウチナインチュ大会

て、移民の歴史や移民の思いをしっかりと若い世代に伝える必要性が強調されたほか、ビジネスネットワークというWUB本来の目的の強化、充実に訴える声があった。



11年ぶりの母県沖縄でのWUB世界大会開催で世界17カ国、22支部から集まった会員ら＝12日、那覇市のホテルロイヤルオリオン



ルイス嵩原氏 (WUBペルー会長)

言葉でつながる必要
WUBペルーは現在、メンバーは25人。メンバー全員が60歳を超えている。これからは若い人たちにバトンをタッチしていかねければならない。会合にはメンバーではないが、18人、19人の若者が参加している。県人会としては設立100周年が一大事になる。コミ

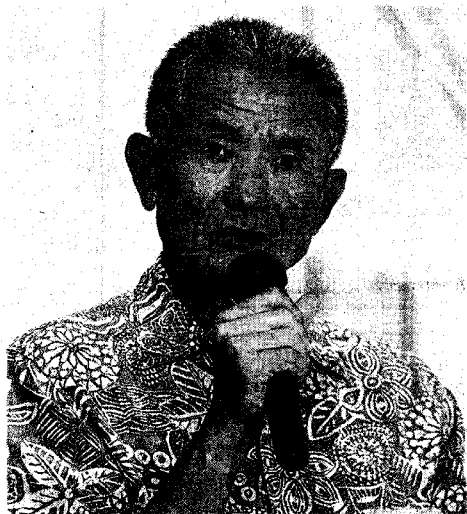
は、言葉でつながる必要がある。英語で会議ができるよう力を入れるべきだ。若い者を育成していく必要がある。南米から沖縄に行くと、たまに母県でないメンバーで会議をしていくのはい。ペルーとしてWUBだけではなく、県人会と協力して開催していきたい。



ロイド新垣氏 (WUBハワイ前会長)

チムグクルが大切だ
WUBハワイは月1回、会合を持っている。会合では政治家や社会福祉の関係者などさまざまな人をゲストに迎え、ビジネスに限らずに、個人的なことや社会問題、政治問題について議論している。毎年9月に開かれている

学するウチナインチュを援している。年1回ハワイで親睦を深めて、WUBアルゼンチン、ブラジルのメンバーが来訪した際にも、来訪している。WUBハワイは大きな団体ではないが、皆さんの人たちの協力の下、活動している。ビジネスより沖縄のチムグクルが大切だと思う。



前原信一氏 (元沖縄テレビ常務)

若い人の育成手厚く
世界のウチナインチュの広がりとともに、それをビジネスに生かそうとWUBが創設された。ビジネス交流がうまくいったものもある。ビジネス的なつながりを期待したがつながりができなく、離れる人たちも

いた。直接的な利益のメリットがなくても、県人会やウチナインチュ大会ではできないものがWUBではできる。若い人の育成も新しい活動の一つだ。若い人への手助けは行政と県人会では手厚くできない。ウチナインチュ大会はウチナインチュにとって晴の日。しかし、それだけでは駄目だ。WUBは情熱を持って創立された。解